

(3) 第10回論文賞・論文奨励賞審査報告

地域安全学会 学術委員会

今年で10回目となった査読論文の募集に対し、計96編の論文が投稿され、査読者および学術委員会による厳正な審査の結果、63編の論文が登載可と判定された。この査読論文を掲載した地域安全学会論文集 No.10 が2008年11月に発行され、11月13～15日に開催された第23回地域安全学会研究発表会において査読論文の発表が行われた。

査読論文発表の終了後、地域安全学会論文賞および論文奨励賞の審査が行われた。ここでは、その審査要領と審査結果について報告する。

■平成20年度「地域安全学会論文賞」および「地域安全学会論文奨励賞」の審査要領

1. 受賞対象者

- (1) 「地域安全学会論文集」に掲載された論文の著者で地域安全学会会員を対象とする。
- (2) 「地域安全学会論文賞」の受賞対象者は原則として筆頭著者および共著者全員とする。
- (3) 「地域安全学会論文奨励賞」の受賞対象者は筆頭著者であり、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある者とする。ただし、再受賞は原則として認めない。

2. 審査方法

- (1) 学術委員会委員全員、および学術委員長が委託する若干名から構成される審査会が研究発表会において審査を行なう。
- (2) 審査は、当該論文の新規性、有用性、完成度、および研究発表会当日の発表、質疑への応答を評価の対象として、これを行なう。
- (3) 審査の実施細目は別途定める。

3. 表彰

- (1) 賞は「地域安全学会論文賞」および「地域安全学会論文奨励賞」と称する。
- (2) 「地域安全学会論文賞」および「地域安全学会論文奨励賞」の表彰は、賞状並びに記念メダルを贈り、これを行なう。
- (3) 表彰は選考された次年度の総会で行なう。

■審査概況

1. 審査会

平成20年度の審査は、12名の学術委員と、学術委員長が委託した2名の地域安全学会理事（山崎会長、宮野副会長）で構成される審査会が、63編の査読論文に対して行われた。

2. 審査方法

審査対象論文の共著者である審査委員は、当該論文の審査から除外し、審査委員は除外された

論文以外の全ての論文に対して審査を行なった。各審査委員は、「地域安全学会論文賞」候補については0～2件程度、「地域安全学会論文奨励賞」候補については3件程度を選出し、審査会において両賞の候補について審議し受賞対象者を決定した。

■審査結果

1. 地域安全学会論文賞

審査会における審議の結果、以下の1編の論文が選出された。

- ・「脆弱性指数を用いたライフライン網の地震時脆弱性評価 ～上水道配水管網への適用～」
能島暢呂（岐阜大学工学部社会基盤工学科）

2. 地域安全学会論文奨励賞

審査会における審議の結果、以下の2編の論文の筆頭著者が選出された。

- ・「対策間の相互作用を考慮した防災対策行動予測モデルの提案」
廣井 悠（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻）
- ・「被災者基本台帳に基づいた一元的な被災者生活再建支援の実現 —2007年新潟県中越沖地震災害における“柏崎市被災者生活再建支援台帳システム”の構築—」
井ノ口宗成（新潟大学災害復興科学センター）